

医・学・官連携による水難事故防止に関する中間成果の公表

沖縄県警察は、令和7年5月から国立大学法人琉球大学病院及び公立大学法人名桜大学と連携し、SIPE（水泳誘発性肺水腫）の研究及び水難事故防止対策を推進しています。

※SIPE（水泳誘発性肺水腫）

医学的な疾患概念は確立されていないものの、外因的な溺水を原因とせず、内因性による浸水性肺水腫の疑いのある病態をいう。なお、SIPEは、Swimming Induced Pulmonary Edemaの頭文字の略称をいう。

SIPEとは、遊泳中、溺れて海水を飲んでいないにも関わらず、肺に水がたまって溺水状態になる症状で、最悪の場合、死に至ることもあります。

令和8年5月22日（金）、SIPEの予防と安全対策に向けた取組として、「ダイビング・スノーケリング前後の体調チェック表」を公表しました。

本チェック表は、マリンレジャー事業者へ提供し、現場での体調確認やリスク把握、医療機関での早期治療等に活用されます。

医学官の知見を結集し、沖縄県の美しい海を、より安全・安心に楽しめる場所にするため、SIPEの研究等に引き続き取り組んでいきます。

連携協定締結（令和7年5月23日）

SIPEの医学的原因の究明や海域レジャー時における予防、その事故発生時における一次救命処置要領の研究のほか、これらの成果に基づく研修・講習等を通じた周知等により水難事故の未然防止を図ることを目的に、医・学・官連携協定を締結しました。



協定締結者（左から）
琉球大学病院長 鈴木幹男、沖縄県警察本部長 小堀龍一郎（当時）、名桜大学長 砂川昌範



体調チェック表の交付（左から）
琉球大学病院 救命救急センター長 梅村 武寛
名桜大学 上級准教授 遠矢 英憲
沖縄県警察本部 地域部長 仲宗根 宗信
（受領者）
沖縄県マリンレジャー事業者団体連合会 会長 稲村 雅司



令和8年5月22日 中間成果の公表状況